



Title	母語・継承語・バイリンガル教育（MHB）研究 第18号 編集後記／奥付
Author(s)	
Citation	母語・継承語・バイリンガル教育（MHB）研究. 2022, 18
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/91731">https://hdl.handle.net/11094/91731</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## 編集後記

COVID-19は、この2年余りの間に人々の生活に大きな変化をもたらしました。これまで当たり前のように行われていた国内外各地への移動や人々との集いなど、それらの有難みを実感しています。

そうした変化に伴い家族あるいは家庭という単位が改めて見直される中で、2021年度の研究大会テーマ「ファミリー・ランゲージ・ポリシーと新時代におけるマルチリンガル教育」は、時宜に合ったテーマとなりました。また、同大会はファミリー・ランゲージ・ポリシー（FLP）研究の第一人者であるケンドール・キング博士を基調講演にお迎えし、英日同時通訳と手話通訳を入れた新時代にふさわしい形で行われました。

本号はその大会テーマと同じ「ファミリー・ランゲージ・ポリシーと新時代におけるマルチリンガル教育」を特集テーマとして、大会でのキング博士の講演録、一般投稿論文8本（研究論文4本、実践報告2本、研究ノート2本）、FLPに関する文献紹介を掲載しました。2020年11月にオンラインで行われた「2021年研究大会のためのFLPに関する読書会」は、受付開始直後から続々とお申し込みをいただきました。短時間のうちに定員に達したため、参加が叶わなかった会員の皆様も少なくなかったことと存じます。13編の文献紹介は、その読書会で発表を担当した本学会理事によって書き下ろされたものです。FLPの調査研究や教育実践にお役立ていただけましたら幸いです。

本号には26本の投稿論文が寄せられ、査読委員による厳正な査読を経て、8本が採択されました（採択率30.8%）。極めて多いご投稿件数からも、FLPへの関心の高さや重要性がうかがえます。惜しくも採択に至らなかった論文の中にも、この分野の研究や実践に大きく寄与する優れた論考も多くありました。MHB学会では、査読者及び編集委員が心を尽くして講評をお返ししております。是非再度ご投稿いただきますようお願い申し上げます。

本号の編集は、宇津木奈美子（帝京大学）と服部美貴（台湾大学）が担当しました。査読に関わってくださった皆様、執筆をご担当くださった皆様には、貴重なお時間の中でご尽力くださいましたことに心から感謝いたします。編集に際しましては、校正者石丸美子氏、あおぞら印刷さまにご親切でご丁寧な対応をいただきました。

不慣れな編集作業で至らぬ点も多くあったことと存じますが、支えてくださいましたすべての皆様に深く御礼申し上げます。

MHB 学会理事 紀要編集委員  
服部 美貴

### 母語・継承語・バイリンガル教育（MHB）研究 第18号

2022年5月31日 発行©2022母語・継承語・バイリンガル教育（MHB）学会

発行者：母語・継承語・バイリンガル教育（MHB）学会

MHB事務局：〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1

立命館大学 文学部

佐野 愛子 研究室内 MHB事務局

電話：075-466-3171（直通） URL. <https://mhb.jp>

印刷所：株式会社あおぞら印刷 〒604-8431 京都市中京区西ノ京原町15